

5 痒疹はどのようにしてできるのか ～動物のデータから～

Elucidating the etiology of prurigo
through the analysis of the newly
established prurigo model mouse

端本宇志

HASHIMOTO Takashi

防衛医科大学校皮膚科学講座助教 /
横浜市立みなと赤十字病院皮膚科

佐藤貴浩

SATOH Takahiro

防衛医科大学校皮膚科学講座教授

Summary

痒疹とは、激しい瘙痒を伴った丘疹や結節を主症状とする頻度の高い皮膚疾患であり、糖尿病や慢性腎不全、内臓悪性腫瘍、アトピー性皮膚炎などに随伴して生じることが多い。痒疹の病態は明らかではなく、いまだ有効な治療も確立していない。われわれは、抗原特異的IgEの存在下に抗原を反復してマウスの皮内に投与すると、ヒトの痒疹に類似した、瘙痒を伴う丘疹ないし結節性の病変を誘導できることを見出した。この病変は好塩基球に依存し、マウス個体内から好塩基球を除去すると痒疹類似病変は減弱した。また、この反応は免疫学的にTh2反応であることがサイトカイン解析から判明した。これらの特徴はヒトの痒疹の特徴と類似しており、今後解析が進めば痒疹の病態が解明できる可能性がある。

好塩基球

末梢白血球中のわずか0.5%以下を占める好塩基性の顆粒をもつ骨髄由来の細胞である。近年、IL-4のおもな産生源として機能し、Th2型免疫応答を誘導する重要な細胞として認識されている。

IgE 依存性慢性アレルギー反応 (IgE-mediated chronic allergic inflammation ; IgE-CAI)

抗原特異的IgEを有するマウスに抗原が経皮的に侵入した際に、即時型反応、遅発型反応に引き続いて生じる、長時間持続する好塩基球依存性の3相目の反応。IgE-mediated very late phase response (IgE-VLPR)ともいう。

KEY WORDS

痒疹 / 好塩基球 / IgE / IgE 依存性慢性アレルギー反応 (IgE-CAI) / Th2